

新しい年に思うこと

同窓会会長 有田 和男 (31回)

* はじめに・・・

今年、十二支の最初に位置します「戊子」の年であります。

一般的に社会・経済情勢は内外ともに激しい変動の年と予測されています。

我々の同窓会も、時代の急速な変化に対応できる体制を構築しなければと考えています。その為には、同窓会の置かれている実態を分析し検討を重ね、現状認識を正確に持って、同窓会としての組織や会務そして財政などを根本から見直したいと思っています。

勿論、現状のままでも良しとなれば、現在の体制で内容を充実して邁進いたします。一方、5年から10年先の将来を見据えて、何らかの改革が必要となれば、皆様とご相談をしながら、その方向に舵をとりたいと考えます。

現在、これらの事は会務運営委員会で議論を重ねて頂いています。

* 一つの見方・考え方・・・

今までの同窓会の進め方を見ますに、同窓生の皆様方へのお願いペースで進んできたと思います。例えば、年会費を納付して欲しいとか、終身会費に切り替えて欲しいとか、会員名簿の購入とか広告の依頼とかのお願いをするばかりではなかったか、との反省があります。

同窓会として考えるべきは、同窓生の皆様に同窓会として何が出来るのか、どのようにして皆様に同窓会を活用して頂けるかではないかと思えます。これからは、同窓会として同窓生の皆様方に何を為すべきかを考える方向に進みたいと願っています。

* 新終身会費制度「特典」の活用・・・

同窓会財政を充実する為に、平成10年度から新終身会費制度を設け、これに「特典」を付与し年会費から終身会費への切り替えの促進を図りました。

この「特典」とは、終身会費の上限が5万円のところを3万円とし、各卒業年次の金額差が1,000円きざみのところを500円の間隔に設定し、年会費から終身会費へ切り替えて頂く為のメリットとしました。

この「特典」は、2年間の時限立法で毎年これを延長してきましたが、一昨年の役員総会で平成20年3月末の10年を節目として打ち切る事が決定されました。これにより、年会費から終身会費に切り替えるメリットが

無くなります。

この3月末が「特典」のメリットを活用できる最後の機会となりますので、終身会費への切り替えをお勧め致します。この切り替えにより事務局の合理化と会務の経費節減にも繋がります。ご理解を賜りたく存じます。

* 夏の「会員総会」・・・

毎年8月の最終土曜日に開催されます「会員総会」が、ノホテル甲子園の日程の都合で、8月23日(土)の開催を予定しています。

会員総会の開催について、その新鮮な企画をと苦勞をされているのは判るが、そのマンネリ化を避ける意味からも、総会の内容と経費の掛け方に、ひと工夫をされてはとの声も聞かされています。節目の会員総会は別途に考えるとして、今後の通常の会員総会は、発想の転換もあって良いとし、現実を見つめ直し知恵をもっと出し合い、経費も抑える方向で同窓生の意義ある交流の場を構築したいと考えています。

* 初心忘るべからず・・・

甲陽時代から集め出した古い書籍の整理をと、昨年末ですが自宅から離れた書庫に足を運びました。埃の被った書物の中に、学生の頃に集めた「世阿弥」の“風姿花伝”や“花鏡”・“申楽談儀”などが当時の資料と一緒に見付かりました。

当時、自分は何を求めて「世阿弥」を愛読したのか思い出そうとしました。確か「初心」の名句は世阿弥から学びました。世阿弥の三ヶ条の口伝に「是非の初心忘るべからず、時々初心忘るべからず、老後の初心忘るべからず。」とあります。未だに、この口伝の神髄に触れるまでには至っていませんが、「老後の初心」について言わんとするところは、今後とも心して探求したいと願っています。



発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 有田和男

印刷所
株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
(月・水・木 10:00~16:00)
FAX 0798-71-4890
E-mail :
fvqp1650@mb.infoweb.ne.jp
同窓会公式ホームページ
<http://www.koyogakuin-oba.jp>



白鹿クラシックス Hakushika Classics

西宮市鞍掛町(礼場筋・臨港線交差点) ■定休日/火曜日

レストラン&カフェ
AM11:00~PM10:00
(ラストオーダー PM9:00)
明治時代の酒蔵をシック&カジュアルな和空間に。
0798-35-0001

ミュージアムショップ
AM10:00~PM7:00
蔵元ならではの、お酒にまつわるアイテムが大充実。
0798-35-0286

酒ミュージアム
白鹿記念酒造博物館
AM10:00~PM5:00
(入館は4時30分まで)
日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承。
0798-33-0008

理事長就任挨拶

学校法人辰馬育英会 理事長 辰馬 章夫



甲陽学院創立90周年から、次の100周年にむけて大きく踏み出す年、90周年記念事業の終了を機に、辰馬伸彦氏からバトンを受け、平成19年11月16日付で理事長に就任いたしました。

私は、本学院の創立者である辰馬本家第13代当主辰馬吉左衛門の孫にあたり、また辰馬本家の事業の中でも甲陽の充実・発展を常に最優先に位置付けておりました父・辰馬吉男の後を継ぐ者として、この度の大役は、宿命的な巡り合せと心得、甲陽の輝かしい歴史を刻んできて下さった先人の90年に渡る大きな足跡を伝承し、且つ時代に即した新たな価値を創造して参る所存でございます。同窓会会員の皆様には、よろしくお導きの程、お願い申し上げます。

私は、幼・小・中・高と甲南学園で学び、残念ながら甲陽の同窓会名簿には名を連ねておりませんが、振り返れば、父の長男教育の一環だったのでしょか、小中学校の頃から甲陽や白鹿には折にふれよく連れて行かれ、ごく自然に父の職場を認識させられていたように思われます。学校に連れて行かれたのは、春休みや夏休みの期間中が多く、父が生徒のいない中学（香櫨園）や高校（甲子園）で校長先生（当時は芥川先生）や日直の先生と楽しそうに雑談をしているのを傍で聞いておりました。高校での創立記念音楽会には毎年同行させられました。英国の名門イートン校を理想とし、自由であるとともに規律を身につける人格陶冶に力を注ぎ、大学を設置せず、全員が自分の望む大学に進めることを至上命題とする甲陽の気風を、ほの暗い校舎に漂う床油の香りとアカデミックな空気感じていました。

私が社会人になったのは、昭和38年ですが、折しも西宮は、海岸の埋め立てによる石油化学コンビナートの進出計画で騒然となり、西宮市の経済的發展をめざす誘致賛成派と、クリーンで静かな環境を守りたい反対派に世論は二分されました。西宮の酒造家は社運をかけて一致団結、猛烈な反対闘争を展開し、辰馬家一門から辰馬龍雄氏（元理事長）を市長候補に立てた選挙戦で、賛成

派の現職市長を大きく引き離し、ここに市民は、はっきりと誘致にノーの答えを出しました。辰馬龍雄市長は「文教住宅都市・西宮」を宣言し、人づくりと酒つくりに対応しい環境が守られることになりました。

昭和40年代は高度成長と激動の時代です。学校教育の国家的・社会的役割が問い直された反体制・バリケード闘争の洗礼を乗り越えた甲陽に次の転機が訪れます。それは甲陽発祥の地甲子園に建つ高校周辺の教育環境の悪化と校舎の老朽化への対応でありました。発祥の地への深い愛着心を振り払い、辰馬家所有の石山と呼ばれる聖地を、比叡山延暦寺の大僧正・葉上照澄老師の祈念により開山、数々の法の網をひとつひとつクリアーしながら、起工から2年4ヶ月をかけて新校舎の竣工・移転にこぎつけたのは昭和53年のこと、ここに中学・中葭原町、高校・角石町という現在の姿になりました。それにしてもあの旧校舎はなかなかの名建築、特に講堂の印象は、今でも心に刻まれています。増してやあの校舎での日々を過ごされた同窓生や旧教職員の皆さまにとっては、ひとしおの懐かしい思いを抱いておられるものと拝察いたします。

中学も昭和62年体育館を新築、平成5年には従来の校舎の東側に新校舎を建て、設備を充実させました。平成7年の阪神淡路大震災では生徒1名の訃報に接し、痛恨でありましたが多くの被災者の方々に体育館を開放し喜んで頂きました。

このような甲陽の歩みを私は、白鹿グループの一員として、また昭和51年から一理事として見つめて参りましたが、いくら環境が良くても、いくら設備が整っていてもそれを生かすのは人、その人の使命感と向上心であります。創立者の理念の実現に教職員、生徒、保護者、同窓会、法人一体になって精魂を傾け、甲陽の名声を不動のものとして頂けたことに感謝の念でいっぱいです。「一年の計は穀を植うるにあり、十年の計は樹を植うるにあり、百年の計は人を植うるにあり」、その百年の計の節目となる創立100周年へむけ、これからも学校、同窓会、育友会、法人の四者が「国や社会の豊かさは、国の大きさや軍事力ではなく、教育によってもたらされる」との視野を共有し、明朗・潑刺・無邪気に建学の精神を守り且つ時代に即応しつつ、生成発展をはかって参りたいと願っています。

創立 90 周年記念会員総会開催される

昨年 8 月 25 日 (土) 午後 1 時 30 分から、恒例の会員総会がノボテル甲子園にて開催されました。今回は母校の創立 90 周年という節目の年にも当たり、多くの企画を盛り込んだ盛大な総会となりました。



総合司会 NHK アナウンサー真下貴氏 (69 回)

第 1 部では、式典に引き続いて講演会が行われました。講師は、京都大学公共政策大学院教授の中西寛氏 (62 回) で、「岐路に立つ世界と日本の生き残り戦略」と題して 1 時間余りの間、世界の現状をふまえ、日本が将来いかにして世界の中で存在感を発揮していくべきかについてご講演をいただきました。とても分かりやすく示唆に富んだ内容で、一同は熱心に聞き入っていました。

世界にアピールすることが日本人は苦手のようなが、水と食糧の安全問題について日本がリーダーシップを発揮できる可能性がある、PKO、NGO、開発支援などで日本は世界にアピールしていくべきだろう、というようなお話のほか、20 年以内に朝鮮半島が統一されるだろうとの大胆な予測、今の日本の政治家への苦言なども話されました。ご講演の後に 3 人から質問があり、中西氏は丁寧に答えておられました。



中西寛教授

第 2 部は、第 1 部と同じ会場でミニコンサート。関西二期会所属のテノール歌手竹田昌弘氏 (59 回) とソプラノの島崎政子さんのデュエットによる、イタリアオペラの名曲とカンツォーネを堪能しました。竹田氏の声量あふれる迫力満点の歌を聴きながら、わが同窓会にも多彩な顔触れの同窓生がいることに思いをいたしました。

第 3 部の懇親パーティーでは、まず元宝塚歌劇団星組スター・桐生のぼるさんが率いる歌とダンスのショー“Dance & Song Live PETIPA!”を楽しみました。



“Dance & Song Live PETIPA!”

その後、鏡開き・乾杯が行われ、懇親会が始まりました。懇親会では、ホームカミング学年である 38 回生と 63 回生が紹介され、記念品 (校章ストラップ) が贈呈されました。また、協賛いただいた各社からの豪華商品の福引抽選会が行われ、大いに盛り上がりました。



鏡開き

懇親会の終わりには、一同で甲陽の校歌を大合唱し、午後 5 時 30 分ごろに中締めとなりました。

参加者は、恩師の先生方 13 名を含めて 270 名でした。新入会員 (88 回生) も 22 名が参加してくれました。

なお、今回の総会にあたり、辰馬本家酒造株式会社から清酒を、サントリー株式会社からビール・焼酎をご寄贈いただきました。また、懇親会での福引商品をご寄付いただきましたのは、朝日放送株式会社、株式会社イシガミ、コクヨ株式会社、株式会社サクラクレパス、サントリー株式会社、新日本海フェリー株式会社、株式会社トレンザ、内藤証券株式会社、ノボテル甲子園の各社様です。厚く御礼申し上げます。

== 予告 ==

今年、平成 20 年度の会員総会は、8 月の第 4 土曜日にあたる 8 月 23 日に予定しています。詳細は次号「甲陽だより」にてご案内いたします。

学校だより

甲陽学院同窓生講演会

高等学校

中から見た大学・大学院

京都大学大学院理学研究科 助教
新谷 亮 (76回)

2007年11月24日(土)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において、第7回の同窓生講演会を開催しました。今回は、京都大学大学院で有機



化学を研究している新谷先生をお招きしました。

新谷先生は、1995年に甲陽学院高校を卒業した76回生で、京都大学理学部卒業後マサチューセッツ工科大学大学院に留学され、博士号を取得されました。現在は、京都大学大学院理学研究科で助教をなさっています。

当日は、自由参加にもかかわらず、70名ほどの生徒が集まり、会場は満員となりました。

新谷先生には、若手研究者として、また甲陽の先輩として、大学や大学院で学ぶこと、そのための心得、また充実した大学生活の過ごし方や京都大学の特徴・魅力などについて1時間あまり話していただきました。

甲陽学院と京都大学の対比という話から始まり、京都大学理学部というところ、学部と大学院の対比、研究室生活に必要なこと、日本の大学と米国の大学の対比などについて、自らの体験にもとづく具体的で生き生きとした内容のお話でした。

最後に、大学進学目前の後輩へのメッセージとして、

1. どの大学のどの学部にはいるかは大切
2. そこで自分が主体的に何をするかはもっと大切
3. 理系においても英語力など文系の素養はとても大切
4. 勉強はできる方が良いが、勉強さえできれば良い訳ではない
5. 広い視野を持ちバランスのとれた人間であると同時に何かにおいて秀でた人間になることを目指そう
6. どこに身を置いても不満やストレスはつきものである 健全なストレス発散法を持とう

以上の6ヶ条を示されました。

比較的若い先輩のお話だったこともあり、参加した甲陽生たちはとても熱心に聞き入っていました。

(甲陽学院高等学校教諭 今西昭 記)

中学校

スリランカのいま

神戸夙川学院大学観光文化学部 准教授
小槻 文洋 (68回)

2007年11月22日(木)の午後、甲陽学院中学校講堂において、第7回同窓生講演会を開催しました。

今回講師にお招きした小槻先生は1987年に本校卒業



後、東京大学に進学。1991年、同大学大学院総合文化研究科に進み、バングラデシュの農村調査を実施。博士課程在学中の1997-2000年に「スリランカにおけるシンハラ・タミル民族問題の調査・研究」を委嘱され、在スリランカ日本大使館で外務省専門調査員として勤務。2004年3月、スリランカ総選挙に対する政府監視団に参加、現在も資料収集と分析をすすめておられます。

講演当日は、大使館の仕事・役割も含めて、映像を交えながら、スリランカの歴史・地理的紹介の後、以下のような内容をお話して下さいました。

1. 公用語としてシンハラ語・タミル語、その連結語として英語があり、その他マレー語を使う人もいる。
2. 宗教的にも、仏教を中心に、ヒンドゥー教、イスラム教、ローマン・カトリック教と多様である。
3. 国民は多数を占めるシンハラ人の他、スリランカ・タミル人、インド・タミル人、マラッカ人、マレー人、バーガー人と多くの民族がいる。
4. 7つの世界遺産がある豊かな歴史をもち、自然にも恵まれ、「美しい国」である。
5. シンハラ人とタミル人との間の民族紛争が1983年頃から激化、その意味では、「悲しい国」である。
6. 日本政府も和平に努力していたが、また、紛争が再燃し始めた。
7. 民族紛争は単なる内政問題だけではない。
8. 一般に、社会的事象を一面的に捉えることはきわめて危険であり、多角的な眼をもってほしい。

生徒たちは、普段はあまり知ることのない国の実情だけに、興味深く聞き入っていました。最後に、シンハラ語とタミル語での挨拶などを教えてもらい、楽しく講演会を終えることができました。

(甲陽学院中学校教諭 大川貴史 記)

学校だより

甲関戦 12年ぶりの総合優勝!

2007年9月12日、甲陽学院中学校にて関西学院中との交歓競技会、いわゆる甲関戦が行われました。毎年行われるこの大会も55回目となりましたが、過去54回の対戦成績は甲陽の9勝38敗7分と苦戦を強いられ続けています。



グラウンドで行われた開会式の後、午前中の競技が始まりました。体育館で行われたバレーボールでは甲陽が2セットを連取し、またバスケットボールでは35対38とともに甲陽が勝利しました。グラウンド種目のサッカーと陸上競技は健闘するものものと一歩力が及ばず惜敗しましたが、テニスでは5対2で見事に関学を打ち破って、午前の競技を終えた段階で3勝2敗と甲陽優勢となりました。



総合優勝への期待が高まる中始まった午後の競技では、野球と水泳は惜しくも勝ちを逃してしまいました。しかし、剣道と卓球では両種目とも最終戦まで勝敗の行方は分からず緊迫した試合となり、接戦の末ともに勝利を収めました。この結果、甲陽は5勝4敗で1995年の第43回大会以来12年ぶりの総合優勝を飾り、10勝目をあげることができました。



お互いの健闘をたたえ合った閉会式の後、勝利の興奮さめやらぬ生徒たちに校長から翌日を休みにするというご褒美(?)の発表があると、生徒から大きな歓声が上がりました。来年度の大会は関西学院で行われますが、未だに成し得ていない甲関戦の連覇にむけて頑張ってもらいたいと思います。

学校だより

今も健在! 合唱コンクール 高等学校音楽と展覧の会

今年も例年通り合唱コンクールが開催されました。1学期から指揮者を選出し、練習したりと、早い時期からかなり白熱していました。1位から順に、Bohemian Rhapsody (Queen)、宇宙戦艦ヤマト(ささきいさお)、星屑の街(ゴスペラーズ)と様々なジャンルの曲が登場しました。優勝した3年D組では、ソロ2人を中心とした6部合唱や、掛け合いを利用したパート毎のパフォーマンスを、準優勝した3年B組では、曲の特性を活かして台詞を入れたり、様々な工夫を

凝らしていました。また、3年はクラス毎に服装を統一し、例年とは違った雰囲気になりました。「自由」という校風のため、クラス単位で何かをするということがあまりない中、協調性を養うという意味でも、合唱コンクールは数少ない貴重な場となっています。これからもこの伝統を受け継いでいって欲しいと思います。



優勝した3年D組

第11回 リレー随筆

「テニス人生を振り返って」

善野 史郎 (33回)

昨年春頃「甲陽だより」編集委員会よりリレー随筆執筆の依頼がありました。その時はお断りしたのですが、同窓会副会長の中村貞三氏より11月末に再度執筆依頼がありました。考えてみますと私も卒業して既に半世紀以上経っており、「昭和も遠くなりけり」で、思い出すままに、私にとって生涯スポーツとなったテニスなどを中心に、この機会に書かして頂くのも意味あることではないか、と思った次第です。

S61年当時日本テニス界から囑望されていた清水弥次郎先生(S25年全日本、複、堀越氏と組み優勝)が御影師範を卒業され、当時2年生だった私のクラスの担任として、甲子園テニスクラブに近い鳴尾東小学校に赴任して来られました。これが私のテニスとの出会いでした。

甲子園クラブはT15年阪神電鉄により設立され、S15年には102面のコートが有りました。ロンドン郊外のウインブルドンは格式では世界一ですが20面、アメリカのフォレストヒルズでも40面位でしたから、甲子園は正に世界一、松林の中の瀟洒なスペイン風のクラブハウス、アンツーカーコートが広々と広がり、5000人収容のセンターコートも在り、国際試合もよく行われ豪華なムード漂うスポーツ施設でした。

もともと甲陽中学は南にテニスの他に野球場、競馬場、大プール、大南運動場、阪神パーク、水族館があり、スポーツ、レジャーのメッカに位置していました。

私はS21年に神戸一中に入学、入学式の講堂で一番に目にしたのは正面の「質素、剛健、自重、自治」と書かれた大きな額でした。当時一中には戦時中の名残が指導生制度というのがあり、4年生の先輩が各クラスに1名付きました。その後、海兵、陸士から復員してきた5年生の猛者連に代わりましたが、5年生から見た4年生はニヤケで軟派という事で、西屋上に聳えている通称「ロンドン塔」に呼び出され、鉄拳制裁でカツを入れられた事があり、その4年生の一人が占領軍にタレコミに行ったようで、一中は未だ軍国主義が残っているということで、米軍がジープを連ねて乗り込んで来ました。その時に対応した5年生の中に、後に中曾根大元帥の通訳として活躍された国広正雄氏が得意の英語で諄々と説明し、米軍を説き伏せたと聞いております。また昭和天皇が全国を巡幸された時、私達1年1組の教室にお泊りになりました。

昭和22年の教育改革、所謂6-3-3-4制により中学2年の後半より県第一高女と統合となり、男女共学となりました。フォークダンスもやらされ、占領軍も見学に来ていました。卒業生男子約250名中、神戸高校に残ったのは約80名(3割)、後は住居に近い公立校へ振り分けられ、兵庫、長田、御影、星陵、芦屋、市西、県尼などの公立校に分散、私立へは灘が一番多く、後で公立校より再度灘へ転校した者も多数おり、結果としては

約60名が灘へ行きました。神戸一中の先生も数名、灘へ行かれました。後は甲南、関学などでした。甲陽へは私を含めて4名でしたが、後でN君が灘へ移りました。私は家が甲陽の近くでしたし、次兄が23回、従兄弟、小学校、テニスの友達も甲陽には沢山いましたので、私にとっては肩の凝らない自由な明るい雰囲気抵抗なく溶け込み、テニスに打ち込むことが出来ました。

甲陽在学中、全国高校庭球選手権は中百舌で行われており、2年、3年と二回とも決勝まで行きながら、機械的に正確な後陣のプレー、確固不動の守りの慶応の吉村義郎選手に二度とも破れました。全国ジュニアでも決勝で茨木高の芥川選手に敗れました。

その後、S31年全日本学生に神戸大学より多久和良君と組んで決勝進出しましたが、甲南の松岡功、小林要組にこれまた敗退。この松岡選手の息子さんが今タレントとして活躍してる松岡修造氏です。とにかく学生時代は全日本のタイトルとは全く縁がありませんでしたが、歳をとってから、H2年全日本ベテラン55歳以上複に関学OBの齋藤博氏と甲子園クラブより参加、決勝に進出。昔の事が思い出され冷や冷やしましたが、負けて元々と開き直り何とか勝利を得、34年ぶりに夢が叶いました。それ以来齋藤氏と組んでH3年、H6年と優勝し学生時代の憂さを晴らしました。

日本のテニス界は大正時代の熊谷一弥、清水善造氏、S8年には佐藤次郎氏単で世界3位、ウインブルドンで佐藤、布井良助組は決勝まで進出、戦後は私と同時代の宮城淳、加茂公成組が世界の4大会の一つの全米選手権に優勝しています。

甲陽中学、高校の名前で活躍されたのは、S14年に川副道彦氏(19回)が全国中等単優勝、複も同期の松浦靖氏と組んで優勝。前年のS13年には両氏で全国学校対抗戦でも優勝。S23年には全国高校で彗星のように現れた大城勲氏(30回)が単で優勝しています。この機会に甲陽OBの全日本での活躍ぶり、主なランキングを以下書いておきます。

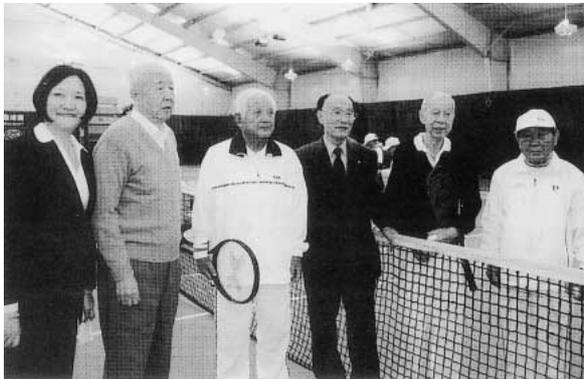
- ☆村上保男(7回慶応) S15,16,17複1位(パートナー堀越氏)
- ☆^{オイタ}種田組(15回早稲田) S16年単1位 S22年複2位(近岡氏)
- ☆川副道彦(19回関学) S21年単2位 S24年複4位(木村氏)
- ☆沢松豊(20回大商大) S21年単20位(沢松ファミリーのゴッドファーザー)
- ☆伊藤文雄(20回関学) S21年単15位複8位(戸次氏)
- ☆大城勲(30回甲陽高) S23年少年単5位
- ☆善野史郎(33回甲陽高) S26年少年単3位複5位(川廷氏) S27年少年単2位

(神戸大) S30 年 (全日本学生) 単 5 位複 3 位 (多久氏) S31 年単 13 位複 5 位 (多久氏)

- ☆菅谷定彦 (甲陽高 38 回) S26 年少年単 9 位 (早稲田) S32 少年単 6 位複 1 位 (広瀬氏)
☆井村彰宏 (51 回甲陽高) S42 年幼年単 2 位
☆谷口忠広 (54 回甲陽校) S45 年幼年単 6 位
☆久我英一 (56 回甲陽校) S46 年幼年単 6 位
☆橋口高志 (56 回甲陽校) S46 年幼年単 9 位

今や進学的面では甲陽の名は全国に轟いていますが、昨今、灘や甲南がテニスの面でも頑張っていることを聞くに付け、甲陽のテニスを含む体育会が一段と活性化され、現役の選手諸君の活躍と共に、OB との更なる交流が活発になることを心から願う者です。

注) 善野氏は神戸大学ご卒業後、丸紅 (株) に勤められ、現在も甲子園テニスクラブ会長、神戸大学庭球倶楽部会長、関西庭球協会相談役の要職にあります。



2006 年 第 20 回北京国際ベテランテニス大会にて左から 3 人目が筆者

宗田副会長 藍綬褒章受章

同窓会副会長の宗田久雄氏 (高商 1) が、長年にわたる地域の防犯活動の功績に対し、2007 年秋、藍綬褒章を受章されました。

難波氏 (32 回) 学士院新会員に

大阪大学名誉教授の難波精一郎氏が、日本学士院の新会員に選ばれました。難波氏は音響心理学の第一人者で、音色を解析し、騒音制御や機械から出る音の改善を進められました。

イタリアに嶋本昭三美術館誕生

宝塚造形芸術大学教授の嶋本昭三氏 (24 回) の美術館が、モッラ財団などの働きかけで 2007 年 6 月、イタリアに設立されました。嶋本氏は国際的に著名な前衛美術家ですが、同館はアーカイブ形式の研究機関、売買もできるギャラリー、そして作品鑑賞の展示場と 3 つの機能をもっています。



あて名ラベルの記号の見方

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成 20 年 1 月 31 日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例: 終身会員 H11 年度



① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

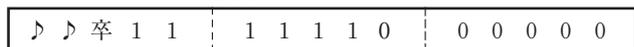
② 下段には左から順に、平成元年度、2 年度、... 17 年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

Table with 6 columns: Symbol (1 or 0), Payment status (paid/unpaid), End of membership (終), Annual fee payment (paid/unpaid), Symbol (♪ or 卒), and Status (in籍/graduated).

従いまして、下段に含まれる 0 の個数 x 1000 円が、未納の年会費となります。同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H 元年以降に御卒業の方は、卒業時から 7 年分の年会費を予めお納め頂いております。次の二つの例をご参照下さい。



H10 以降は未納です。未納分をお納め下さい。

H15 年分まで納付



H8 年 3 月に御卒業、さらに 1 年分の年会費を頂いたため、H15 年度まで納付しておられます。

④尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

故・高垣雄二郎先輩へのお別れと御礼の言葉

同窓会会長 有田 和男 (31回)



2007年6月23日、高垣先輩は御年90歳のご高齢で永眠されました。

私は、先輩の突然の悲報に接し愕然とし吾を失いました。先輩には、十日ほど前にお電話にて親しくお元気なお声に接したばかりでした。

なぜ・どうして、との思考が錯綜し暗然とした思いに晒されました。先輩と最初にお逢いした時の温顔とお言葉が、深い悲しみの中に蘇ってきました。

先輩と初めて親しくお言葉を交わさせて頂いたのは、阪神大震災の前年でした。同窓会の会長をされていた先輩に、時代の進展に即応した同窓会の新しい在り方が必要だと、厳しく迫ったのがご高誼を得る始まりでした。その時、先輩から「交人交心、澆樹澆根」の言葉を教えられました。人と交わる時は、上辺だけを繕うのではなく、心と心との触れ合いを大切にしたい。貴方との交わりは、この言葉で結ばれたいものだと云われました。私は、先輩の母校と同窓会を思うその心意気に触れ、功名誰か復た論ぜんの心境に至らされました。

その後は、阪神大震災で被災された同窓生の安否確認のお手伝いから始まり、同窓会の活性化と財政の再建と云う大役を担わされました。それが今日まで続いております。私が先輩から直接にお教を頂いたのは、僅か15年ほどの短い期間であります。その私が先輩の追悼の辞を申し上げるのは、何か僭越ではないかと思いますが、亡き先輩をよく知る諸先輩も、時の流れもあり寡聞にして見当たらず、私が先輩を偲ぶ筆を執ることになりました。

先輩が、旧制の甲陽中学を卒業されたのは、1936年3月で第15回卒であります。在学中はクラブ活動として、運動では卓球部で活躍され、一方ハーモニカバンドも結成され、ハーモニカの名手として指揮もとられたと聞いています。

甲陽を卒業後、旧制の大阪歯科医科専門学校（現・大阪歯科大学）に入学され、医学の道を歩まれました。旧制の大阪帝国大学にも学ばれ、更に京都大学医学部でも学ばれて、同大学で医学博士の学位を受領されています。

先輩は、甲陽中学時代から鉄道に興味を持たれ、当時の鉄道を使っての一人旅を愉しまれたと聞かされました。その鉄道好きが高じて、後に「交通評論家」と

しての確固たる地位を内外に築かれました。この先輩のご活躍は、大分・宮崎・鹿児島・高知の各市・県の観光・開発の発展にも親身になって尽力をされています。それによる旧・国鉄から現在のJRをはじめ各航空会社・船会社に対する先輩の存在感は、目を見張るものがありました。私は、先輩のお仕事を兼ねての四国・九州の旅に誘われ何度もお供をしましたが、JRの駅や空港には必ず駅長や偉い方のお迎えがありました。先輩は、どのような時にも謙虚で威張らず、ニコニコと笑顔で丁寧な挨拶をされていました。先輩への各界からの尊敬と、その交流の深さを垣間見た思いがしました。

その先輩への評価とご功績は、隣国の韓国にまでおよんでいます。それは「日韓共同切符」の実現に現れています。先輩の夢の一つに、東京から対馬海峡を渡り、韓国から北朝鮮を抜け、旧満州からシベリヤ鉄道に繋ぎ、ロシアのモスクワまで一本の鉄道線路で結びたい。「レールは心をつなぐ道」だからと、その夢の実現をよく聞かされました。先輩は韓国との絆が強いことで知られています。それが大韓民国鉄道庁からの数々の表彰と感謝牌の授与に現れています。この韓国との繋がりが、母校の在校生を引率しての韓国高校生との交流を生みしました。

先輩は、同窓会の会長として「母校と共に歩む甲陽学院同窓会」を提唱され、母校と同窓会の堅実な発展を心から願われて、全身全霊を持ってご尽力されました。本当に母校と同窓会を慈しみ愛されていました。そのご苦心とご苦勞を、そして先輩が持つ見識の高さを、私は間近にいて知り学ばせて頂きました。その一つに、霞ヶ関の官庁には、甲陽の優秀な後輩が勤めています。その後輩達を集めて各省間の甲陽生としての交流と結束を、私財を投じて努力されているのを見ています。

高垣先輩の同窓会に尽くされたご苦勞に対して、心からの感謝と御礼を申し上げます。同窓会として先輩を失った悲しみ、そして損失は大きなものがあります。私としまして、先輩の歩まれた90年の見事な人生をここに顧みる時、称賛の拍手をもってお見送りさせて頂きたく思います。先輩の母校と同窓会に対するご遺志を継ぐことをお誓いして、御礼とお別れのご挨拶とさせていただきます。

なお、今年のはじめに高垣先輩の奥様から、奥様が詠まれた一冊の俳句集『花木槿—はなむくげ』を頂戴しました。奥様のお言葉の中に『刊行を一番楽しみにして居りました主人がそれを目前にして急逝いたしました。今にも黄泉の国から「乾杯」という声が聞こえてきそうです。』とありました。先輩が記された「まえがき」と併せて拝読させて頂き、先輩のご夫婦愛に胸うたれるものがありました。句集名の『花木槿』は、韓国の国花の「木槿」からきているとのことでした。

識見高く同時に慈愛の瞳を持たれていた先輩を偲ぶ時、李白の「名月帰らず 碧海に沈む、白雲 愁色 蒼梧に満つ。」の詩が心に浮かんできます。 合掌

金田 収二先生逝去



1966年4月から78年3月まで母校で英語科教諭として教鞭を執られた金田収二先生が2007年10月18日逝去されました。謹んでご報告いたします。

金田収二先生の思い出

伊藤 真樹 (53回)

金田収二先生は1966年4月、僕たちが中学に入学したときに着任され、僕が所属した1年B組の担任になりました。兵庫高校からの転任で、48才とおっしゃってたので今の僕たちよりも6才くらい若かったことになります。それ以来、国語の山岡先生、数学の吉本先生、あるいは地理の宮本先生とともに6年間英語を担当していただきました。須磨のご自宅から愛車のスバル360で香櫨園、甲子園へと通われていました。震災まで住まわれていたはずの須磨のお宅の電話番号の下4桁は5164、「恋虫」と言っておられました。

廊下を歩かれているとき、あるいは授業中もだっただしょうか、右手の人差し指と親指を立てて振り子のように振られるのが癖でした。それから、東京のご出身だったと思うのですが、日本語の発音が難しかった。授業参観のときには親たちが、子供たちあれでわかってるのかしらん、と言っていたものです。僕たちはわかっていたのか、慣れたのか？

先生の授業スタイルは文法を軸にしたものではなく、長文をどんどん読んで感覚的に英語を身につけていくというもので、早くからジョージ・オーウェルの文章やハックスレーの科学論文集などをたくさん読まされました。僕は今アメリカ系の企業に勤めており、日常的に英語を使う仕事をしています。今使っている英語は甲陽での勉強の上に30才を過ぎてからの勉強がベースになっています。そうした大人になってから (native Japanese

speakerになってしまったからということ)の外国語はやはり文法なしでは無理で、今でも3人称単数のsは頭で考えて喋っています。でも、大人になってからの会話の上達は、いろんな場面で登場する表現を知っていること、聴き取り能力にしてもその場面で出てくる表現を知っているから聞こえる、という要素が大きいと思っています。つまり、たくさんの場面でたくさんの英語表現に出会わなければならない。そういう意味で、先生の英語教育へのアプローチはなかなかよかったなあと思っています(しかも、中学・高校の僕たちは、まだnative Japanese speakerになりきっていなかったのかもしれない)。

それから、看板などの間違い英語を見つけるのがお好きだったようで、散髪屋の看板にBarberと書いてあるのは間違いで、本来Barber's shopのshopが省かれているのでBarber'sが正しい、とおっしゃっていたことなど印象に残っています。受け継いだわけではありませんが、僕もアメリカでは通用しない和製英語を見つけては喜ぶなど、英語についてアンテナを立てるのは趣味みたいになっています。教え子ここにあり、か(手は振ってません)。あらためて先生に感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

訃報

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

(平成20年1月31日現在)

山本 忠光氏 (20回)	小川謙二郎氏 (20回)	井田 英彦氏 (19回)	押柄 義和氏 (18回)	丸尾 治郎氏 (10回)	上島 好三氏 (8回)	太田 隆雄氏 (7回)
07年1月16日	04年4月12日	06年11月14日	05年8月27日	07年5月3日	06年11月27日	07年3月17日

酒匂憲之助氏 (高商4)	薪先喜始雄氏 (高商1)	柴原 正英氏 (62回)	寺澤 悦治氏 (58回)	安積 聡氏 (58回)	瀬川 博美氏 (53回)	井上 誠氏 (53回)	長谷川 勉氏 (51回)	仲谷 勝氏 (45回)	青木 烈氏 (43回)	山崎 康正氏 (39回)	桂 貞夫氏 (35回)	岡本 一男氏 (35回)	広田 秀美氏 (33回)	河合 仁氏 (32回)	佐藤 彰氏 (29回)	中川 明氏 (25回)	常川英一郎氏 (23回)	清水 修氏 (22回)	木村 博次氏 (23回)	片岡 和雄氏 (23回)	加藤 泰生氏 (23回)	(宏泰)氏 (23回)	浅井 徳一 (22回)	檀野 讓氏 (22回)	諸戸 立雄氏 (22回)	宗澤 博司氏 (22回)	筑井 正之氏 (22回)	渡辺 三郎氏 (21回)	入間田謙信氏 (21回)
07年2月13日	07年6月26日	08年1月30日	06年7月12日	07年9月30日	07年8月21日	07年8月	05年12月14日	06年7月20日	06年7月31日	07年6月1日	07年9月18日	06年5月22日	07年6月14日	07年9月2日	07年8月15日	06年12月27日	06年5月19日	06年7月14日	07年11月1日	07年5月31日	07年7月10日		06年2月24日	05年4月	07年4月13日	07年4月15日	07年11月14日	07年8月10日	

会 務 報 告

平成19年の役員総会で設置が認められた会務運営委員会における議論を中心に、現在同窓会で検討中のことをご報告いたします。

1 会費規定の見直し

従来からの新終身会費の特典が終了することにもない、また創立100周年に向けての同窓会財務の確立のために、会務運営委員会では次のような案を検討中です。

「年会費」を2000円とする。「終身会費」は、25才での金額を5万円とし、1才きざみで千円ずつ減額し、65才での金額を1万円とする。この新制度は、平成21年4月より実施する。

以上の案を本年4月の役員総会に上程する予定です。

2 甲陽学院同窓会ネット（仮称）

前号11頁でもご案内しましたとおり、同窓生の皆さんが地域、年代の枠を超えて情報を交換できる道具として同窓会の公式メーリングリストを創設するべく準備中です。登録料、使用料はかかりませんので、多くの会員の皆さんが参加されるよう願っています。

学年、クラブなどで、既にメーリングリストをお持ち

のグループの管理者の方は、大変お手数ですが、<http://www.koyogakuin-oba.jp/> 或いは42回花木 je3fwx@msi.biglobe.ne.jp までご連絡をお願いいたします。

この件の詳細につきましては、次号でご案内する予定です。

3 会員総会のあり方

昨年11月の理事会で、夏の会員総会のあり方の見直し（例えば隔年で開催することなど）が議論されましたが、大勢の意見は、これまで通り毎年開催することを求めるものでした。会務運営委員会でも、その線に沿って、赤字が出ないような開催方法を検討することで合意しました。

4 会員名簿の発行

最新の会員名簿は平成15年に発行されたものです。次回の会員名簿の発行について、個人情報保護や発行経費の観点から議論をし、原案を4月の役員総会に上程する予定です。

● 平成19年度 12月分収支集計表 ●

【収入の部】			【支出の部】		
科目	12月分	累計4-12月分	科目	12月分	累計4-12月分
会費	95,000	3,977,750	人件費	356,720	1,679,480
※年会費	29,000	924,750	※月手当	128,000	1,152,000
※終身会費	66,000	2,328,000	※夏冬手当	210,000	320,000
※新卒入会金	0	0	※通勤費	18,720	207,480
※新卒年会費	0	0	交通費	0	0
※新卒終身会費	0	725,000			
			必要費	△91,665	731,651
会報広告料	0	30,000	※通信費	2,835	328,227
総会費収入	0	1,285,500	※事務消耗品費	0	12,144
利子収入	0	15,690	※備品費	0	15,800
ストップ収入	0	146,400	※IT関係費	△94,500	375,480
雑収入	0	0	会議費	428,580	2,795,597
寄付金	0	15,000	※役員総会費	0	1,807,647
			※役員総会費	0	204,064
収入合計	95,000	5,470,340	※理事會費	97,776	97,776
特別立金繰入	0	0	※委員会費	52,206	407,512
基本金解約	0	0	※懇談會費	278,598	278,598
繰越金	0	11,808,259	事業費	0	3,451,379
			※甲陽だより	0	443,046
合計	95,000	17,278,599	※郵送料	0	766,108
			※振替用紙	0	67,630
◎H19年12月末日現在 現預金残高明細			※封筒	0	79,695
*三井住友銀行(普通預金)	5,763,407円		※記念品	0	497,900
*郵便局(普通預金)	313,926円		※母校後援費	0	120,000
* 〃 (振替通知票)	4,434,833円		※90周年事業費	0	1,477,000
*三菱信託銀行(普通預金)	1,274,224円		雑費	72,540	241,275
*手持現金	857,647円		※校内志	20,000	40,000
合計	12,644,037円		※慶弔その他	50,000	100,000
甲陽F預かり金(別会計18年残)	-80,000円		※振替料	2,120	69,510
(別会計11月迄残)	4,314,820円		※その他雑経費	420	31,765
(別会計12月残)	30,000円				
合計	8,379,217円		支出合計	766,175	8,899,382
◎平成19年度12月分 収入件数の合計と、累計			特別立金繰入	0	0
科目	件数	累計	新基本金繰入	0	0
寄付金	0件	1件	予備費	0	0
年会費	15件	347件			
終身会費	3件	93件	支出総計	766,175	8,899,382
新卒終身会費	0件	29件			
広告費	0件	1件	収入総計		17,278,599
雑収入	0件	0件	支出総計		8,899,382
			翌月繰越金		8,379,217

(単位：円)

● 終身会費・各回別納付金額設定表 ●

回生	金額	回生	金額	回生	金額
1回	10,000	34回	10,000	67回	26,500
2回	10,000	35回	10,500	68回	27,000
3回	10,000	36回	11,000	69回	27,500
4回	10,000	37回	11,500	70回	28,000
5回	10,000	38回	12,000	71回	28,500
6回	10,000	39回	12,500	72回	29,000
7回	10,000	40回	13,000	73回	29,500
8回	10,000	41回	13,500	74回	30,000
9回	10,000	42回	14,000	75回	30,000
10回	10,000	43回	14,500	76回	30,000
11回	10,000	44回	15,000	77回	30,000
12回	10,000	45回	15,500	78回	30,000
13回	10,000	46回	16,000	79回	30,000
14回	10,000	47回	16,500	80回	30,000
15回	10,000	48回	17,000	81回	30,000
16回	10,000	49回	17,500	82回	30,000
17回	10,000	50回	18,000	83回	30,000
18回	10,000	51回	18,500	84回	30,000
19回	10,000	52回	19,000	85回	29,000
20回	10,000	53回	19,500	86回	28,000
21回	10,000	54回	20,000	87回	27,000
22回	10,000	55回	20,500	88回	26,000
23回	10,000	56回	21,000	89回	25,000
24回	10,000	57回	21,500	高商・1	10,000
25回	10,000	58回	22,000	高商・2	10,000
26回	10,000	59回	22,500	高商・3	10,000
27回	10,000	60回	23,000	高商・4	10,000
28回	10,000	61回	23,500	機械・1	10,000
29回	10,000	62回	24,000	機械・2	10,000
30回	10,000	63回	24,500	造船・1	10,000
31回	10,000	64回	25,000	造船・2	10,000
32回	10,000	65回	25,500	工業・1	10,000
33回	10,000	66回	26,000		

※83～89回は前納年会費以外に上記の金額となります。

(単位：円)

会員だより

甲陽学院創立 90 周年記念 ゴルフ大会開催

「同窓会にもっと楽しい企画を…」の趣旨で企画された、母校創立 90 周年記念親善ゴルフコンペが平成 19 年 10 月 25 日、好天に恵まれた有馬富士 CC にて平田名誉会長 (22 回) から 44 回の諸兄参加の下、5 組 18 名の参加で行われました。同期会とは異なり、異世代交流の成果は充分上げられたものと感じております。(優勝は詠田英夫氏 44 回) これからもこの会を続けて行こうとの賛同を得ましたので、次回は平成 20 年 5 月 22 日 (木) よみうりゴルフクラブ (ウエストコース) で開催することになりました。

参加申し込みは Fax 078-411-1432 (金山) 締め切りは 4 月末日。前回参加者と愛好者には案内書をお送りします。最後になりましたが、有田会長、事務局、33 回二宮、35 回中村幹事に厚くお礼申し上げます。

(32 回金山二生)



21 回 橘組クラス会の報告

平成 19 年 11 月 6 日 (火曜日)、第 35 回目の橘会を開催しました。

今年は随分不順でしたし、前日どころか、当日朝の天気予報も冷たい雨が降るとのこと、天気にも恵まれた橘会も、今年は駄目かと諦めていましたが、お蔭さまで穏やかな一日でした。会場は JR 芦屋駅前のホテル『竹園』4 階「三笠」の椅子席です。

今年は残念なことに昨年元気で出席された筒井 潤君、最近まで出席の入間田謙信君の訃報があり、開会に先立って、一同黙祷をささげ、冥福を祈りました。昨年同様、定刻前に全員集合、事務的な報告のあと乾杯、それぞれ談論風発、楽しい一時でした。

写真は後列左から一色 皓・井本幸雄・森岡甲子男・



宮津雅雄・林 信男、前列濱口博章・樋口達彦の 7 名です。

来年 36 回目の橘会は、平成 20 年 11 月 4 日 (火曜日)、場所は本年同様ホテル『竹園』と決定しましたので、一年先の予定をお願いします。幹事は引き続き私がさせていただきます。

平成 19 年 11 月 18 日
(濱口博章)

追記

残念なことに原稿作成中の 11 月 14 日、渡邊三郎君の訃報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

24 回 梅組レポート

秀光美会の命名の由来は、以前紹介しましたが、卒業までご担当戴いた三先生のお名前を一字ずつ戴いたものです。

秀光美会の殆どのメンバーは、今年、目出度く“傘寿”の齢を迎えました。卒業生 44 名 (8 名は 4 年で 23 回生として卒業) のクラスメートも、現在、連絡の取れるのは、20 名と為ってしまいました。

ここ 1~2 年で、雑古昭二、児島三郎、札抜琢哉がお亡くなり、寂しくなりました。心よりご冥福を祈ります。

現在、本会は、元大和ハウス工業の社長、会長を歴任された、石橋毅一さんのご好意で、

大阪市西区阿波座 1-5-2 第四富士ビル 8 階
石橋事務所

に置かせて貰っています。

本会の行事としては、3 ヶ月に一度、石橋事務所では昼食会を開き、甲陽時代に思いを馳せつつ、四方山話に花を咲かせる事とし、一年に一度は一泊泊まり掛けの総会を楽しんで居ます。

(古田勝己)



25 回 桜組クラス会

平成 19 年度桜組クラス会を、平成 19 年 10 月 4 日 (木) に大阪・北新地パーティパークで開催しました。

本年は、7 名の出席でありました。当初、9 名の予定でありましたが、数日前の冷え込みの影響からか、直前になって体調不良のため参加出来ない方があり、7 名となりました。

昨年のクラス会開催以降は、誰一人欠ける事なく、クラス会名簿も、作成年月日の更新だけで済んだ事が報告され、お互いの健勝を喜び合いました。

瑞穂さんは、僧職の中でもビルマ通として知られているのか、10 月発行のアエラ誌に、今夏に発生した日本人写真記者射殺事件に関連した記事の中で、ビルマと日

本の宗教観の差異についての瑞穂さんのコメントが、掲載されて居る事が報告されました。因に、平成12年の当クラス会では、「ミャンマーに学校を建てる会」を提唱されて居る瑞穂さんの趣旨に賛同して、出席者一同がカンパをして居ります。

渡辺さんは、予て、食育をライフワークとして、熱心に普及活動に取り組んで居られますが、本年3月には「子に継ごう、食の心と良い習慣」をテーマに、「食のはぐくみ研究所」を設立し、オリジナル教材を使っての子どもの食育指導、教育教材の作成及び団体、企業を対象とした食育活動の企画指導等を活発に行って居られる事が報告されました。

因に、渡辺さんには平成16年の当クラス会の席上で、食育に就いての話をして戴いて居ります。

其他、出席されて居る方々は、忙しく活躍して居られる様子が披露されると共に、クラス会ならではの寛いだ雰囲気の中で、四方山話に花が咲く楽しい一刻を過ごす事が出来ました。

最後は、恒例の校歌及び応援歌の大合唱で締め括り、来年の再会を約束して散会しました。来年のクラス会も10月初旬に開催する事になりました。

今回の出席者は、余部光男、河村郁夫、錦織達郎、松浦 守、瑞穂光信、渡辺正雄、安達正昭の7名でありました。(安達)



25回 25 R会 開催

去る10月28日 ノボテル甲子園にて14名が集まり、近況を語り、動員中の悪戯鬼共の話に華が咲き、瞬間の3時間でした。

出席常連者が身体故障で欠席されているのが残念でしたが早く快復されることを願って閉会しました。

久し振りに「甲陽学院発祥の地」の碑を訪れたが植木が大きくなっており、歳月の経つ速さを実感した。

(黒岩)



写真左から
真田 卓幸・湯川 哲男・北邨 英夫・高田 典雪・田村 節夫・田邊 幸雄・高橋 寛
渡瀬 啓一・世良 和明・菅 宏・辻本 茂・松宮 隆男・朝倉 裕

35回 ミニ29B会

満開の桜を観るには絶好の日和だった4月6日の午後、B組のクラスメーツが大阪駅前第一ビル「大阪凌霜クラブ」に集まった。

東京から山崎・植野・江口・吉田の諸君、名古屋から松本君が参加、いつにない賑やかな集いとなった。

テーブル越しに飛び交う話題は、写真・デジタルカメラの蘊蓄、音楽特にジャズの話、甲陽東京@35 = S29会、サントリーウィスキー「山崎」の字体、中学・高校時代の他愛もない話などなど多岐に亘っていた。

とにかく飲むより、食べるより話題の尽きないお喋りに、3時間が瞬く間に過ぎ去った。

参加者は上記の諸君のほか、阿部・泉・大菅・角田・塩谷・柴田・鈴木・中野・中村貞三・西岡・間世田・三木・安富の諸君で、合わせて18名。

「この次もお互いに元気で会おう」と散会した。(塩谷)



38回 同窓会

50周年記念、38回生同窓会が、2007年11月18日、ノボテル甲子園で開催された。

わが38回生は、昭和29年(1954)中学を、32年(1957)に高校を、それぞれ卒業した。

記念の同窓会ということもあって、北は北海道から、東京はじめ遠来組15名を入れて、50年ぶりに顔を見せた同窓生も多く、総勢48名がはせ参じた。

宮本茂先生(社会)、中島博先生(理科)に加えて、遠路駆けつけて下さった、中川経治先生(社会)3人の先生方から、それぞれ、心温まるご祝辞を頂戴した。

新たに鬼籍に入った、仁井清喜、久保正毅、早崎健各位と同窓生物故者全員に黙祷を捧げた後、テレビ東京会長、菅谷定彦から、「放送界の裏話」と題して、同窓会でないと聞けない、マスコミ最前線のホットな情報を聞くことが出来た。講演のあと、坊岡進による、自作「有田川」のピアノ演奏、加えて、2007年、文部科学大臣賞を受賞した、羽田英彦画150号の大作「位相」2点が、会場左右に飾られ、花を添えた。

会場に展示された、中学、高校の卒業写真(堀口知義編集)には、少年時代にタイムスリップさせて、思わず

相好を崩した。出席者全員に、スケッチにエッセーを添えた画集「ユニークに乾杯」(江壽健一郎著)が引き出物として配られた。

坊岡進(ピアノ)、西村亮一(フルート)、水垣健(トロンボーン)の伴奏で、中学、高校校歌を声高らかに歌い、このたびは、体調不良などで、止む無く不参加となった同窓生も入れて、二年先の再会を約して散会した。

(江壽)



46回 甲子園会 (高校入学者の会)

去る 3 月 21 日 (祝) ノボテル甲子園において昭和 37 年高校入学者の学年会が初めて開かれた。36 名が高校入学し 3 名が途中で転校、物故者 1 名であるが、当日の参加者は 9 名で目標とした中華テーブル 2 卓囲む事はかなわなかった。還暦を迎えたとはいえ、第一線で活躍する人も予想以上に多かったのが幹事が期待するほど集まらなかった原因であろう。また心筋梗塞を 2 度発症した為欠席を余儀なくされる者や、車椅子ながら笑顔を見せてくれる者がいて、改めて健康の大切さを感じた。それでも同窓会初参加者や 2 度目の参加者が遠方から駆けつけ、4~5 時間の歓談となった。来年は誘いあって 3 月 20 日 (祝) 淡路の「かんぼの宿」で再会し、同窓会に来たことのない仲間を誘い出そうということになった。我々高校からの入学者(甲子園会のメンバー)は、コーカン戦などついていけない話題があったり、他クラスと同級生を知らないためか、ともすれば同窓会に欠席がちである。選抜高校野球をやっている甲子園球場の隣で、補習を受けた(やらされた?) 苦い思い出を共有している者たちも誘いあって学年同窓会に参加したいものである。

(富田 勲)

62回 山下正昭先生還暦お祝いの会

山下先生がめでたく還暦を迎えられ、先生が初めて中高 6 年間担任をされた学年である 62 回卒業生でお祝いを、ということになり、去る 10 月 28 日にノボテル甲子園にて還暦お祝いの会を開催いたしました。当日は天候にも恵まれ 24 名の参加を得て、出席者それぞれが当時の秘話を含めた思い出を披露するなど、終始笑いが絶えない楽しい宴となりました。

恒例の還暦お祝いといたしまして何か「赤いもの」をと考え、教材メーカーに特別にお願いし製作していただ

きました『赤い黒板用コンパス』をお渡しいたしました。(後日、別に心ばかりのお祝い品をお届けしております)

なお、同期同窓会を 2009 年 1 月 2 日にノボテル甲子園にて行う予定です。是非ご参加いただきますよう、今から日程の調整をお願いいたします!。(渡瀬)

金田取二先生におかれましては、私どもの在学中の不義にもかかわらず、同期同窓会には足が痛むのをこらえながら必ずご出席いただき、お幾つになられましてもご教授いただきました時と変わらない声で、社会人になった私どもに優しく語りかけていただきました。

同期一同、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



機械 1 回

会員総会特賞当選記念特別寄稿

甲陽学院 90 周年を迎えて

先般、はからずも同窓会の抽選で特賞を当て、東山さんから奨められて取りとめも無いことですが、一文したためました。

わが身を振り返れば、それは自分自身の歴史である。

甲陽に入学する機縁は、昭和 18 年、中学卒業に当たって、長岡工専を受験した。当時、直通の夜行列車で友人と共に北陸路を行く。朝、目覚めると右手に見える山々は、銀色にきらめき将に異境に、はるけしも来しものかなと感傷にひたったが、学科試験は無事終えることが出来たが、後日行われた体格検査は不合格で、当日、夜行で大阪へ取って帰り甲陽工専の試験に臨んだ。

この日も尿の検査は、コーヒー色の尿であったが何とか助けられてやっとのことで、入学を許された。これが縁の始まりで農村奉仕に丹波大山村へ行く友人たちとの縁にしが深まり、山越えの試胆会や、ある時は、夜中に腹を空かして雑炊をしたことなど懐かしく思い出す。

昭和 20 年 3 月 14 日、大阪大空襲には、我家は無事であったが大阪空港が敵艦載機の標的となって、機銃掃射を受け、その都度薬夾が頭上から落ちてくるので、防空壕にたえず入らなければ為らないと親たちは云うていた。

やがて同年 5 月 5 日、広島砲兵隊に入営した。その際、一晩泊まったのは、今、原爆ドームの川向こうの紙屋町であった。この地名は現在、見当たらない。その後、部隊は編成され西高屋の小学校で訓練を受けた。その時山越えに軍港“呉”が空襲を受けているのを見た。その後、宇野から高松に渡り天坪の山中に野営をした。私は

其処で赤痢に感染した。そして高知陸軍病院の隔離病棟に転送された。まともな薬は無く下剤と水で下痢をして腸を空にして治すということ、若いから可能だったのだろう。退院して山に帰ると玉音放送があって原隊広島に復帰することになった。まだ統制が取れているのか、スムーズに宇高連絡船を経由して、広島に着いた。駅前に出た。そこは何も無かった。目を妨げるものは何も見当たらなかった。シーンと云う音のみがあった。道は綺麗に掃き清められ、焼け爛れた瓦礫は両脇に寄せられていた。お城の裏の砲兵隊に着いてみると給水塔のみが残っていた。そこで食料や物資の配給を受け、めいめいが飯盒炊爨をして壺晩の野営の後、広島駅へ向かった。原爆が投下され、爆発後、岡山の連隊が動員され、後片付けと清掃を行ったとのことである。この時、相当、放射能の被害を受けたものと思われる。原爆の被害を受けて生き残っても、その影響は子、孫三代に及ぶのではないか、今、無責任に再軍備、核爆弾の保有を唱える者が居るが絶対に許しては為らない。幸にして、爆心地の広島を通過して大阪に帰ることが出来た。親たちは無事であった。然し家財の疎開に能勢の山深い止呂美まで親夫婦が大八車を押して山を登って行ったとのことである。今ハイキングで行くだけでも大変なのに頭が下がる思いである。

卒業以来約六十年、会者定離か、一期一会か、わが友も次々欠けて須槍福蔵君を始めとして赤松寅三朗君、杉原忠臣君、鴨井脩君、立川三朗君、松岡泰三君の訃報に人生の縮図を觀取せねばと思います。

広島を経験を後世に伝えたい為あえてかきました。平和な世界であることを祈念します。

平成19年9月16日
(機械1B組・藤井貫太郎)

グリー部

2007年8月14日午後2時から「グリー部OB・現役合同演奏会」～松井義知先生の還暦を祝して～が、宝塚バガホールで開催されました。プログラムは

1. 黒人霊歌集：現役高校生 指揮 松井義知
2. 男声合唱組曲「富士山」：オールOB 指揮 岡田耕治
3. フォスター名曲集：ヤングOB 指揮 杉山恭史
4. 愛唱歌集：OB・現役合同 指揮 松井義知

現役の演奏はリズム感がよく、声も出ていて、練習の成果が十分に発揮できていました。OBたちも負けずに、

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- *次号・第78号は、本年7月末頃に発行を予定しています。
- *「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- *原稿の締切日は、本年6月10日です。

大学それ以降も歌い続けてきたであろう手慣れた曲を楽しく歌い上げ、洗練されたハーモニーを聴かせてくれました。

花束贈呈、松井先生挨拶の後、先生の指揮で全員が学院歌を合唱しました。30数年の年代差がある80名の甲陽健児が、固い絆に結ばれ心一つにして歌うステージは、まさに「甲陽」であり、学院歌にいう「愛、智恵なり、光、未来、契なり」の具現だなあと感動しました。

(22回 酒井新介)



サッカー部

毎年恒例となっているサッカー部OBと現役部員とによる初蹴り会は、今年も1月3日（木）10時より高等学校グラウンドにて開催されました。快晴、微風の絶好のコンディションのもと、多数の現役・OB・およそ50名が参加して、サッカーを通じて親睦を深めることができました。また、本年より水倉泰治氏（57回）が京都大学サッカー部の監督に就任されることがOB会長中村貞三氏より披露されました。

今後も1月3日実施で継続していく予定ですので、多数のOBの皆様の御参加をお待ちしております。



水倉君京大サッカー部監督就任

☆「ノボテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15%割引」「レストラン&バー10%割引」の優待券を発行していただいています。2010年12月30日までの優待券が事務局にありますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

2007年6月1日以降12月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(2007年5月31日以前に醸金された方は73号～76号に掲載しております。)

13回 船木 恒雄	36回 田村 眞也	38回 松林 輝芳	50回 吉村 健一
22回 大澤 安正	36回 當舎 侃	38回 水垣 健	52回 飛田 圭吾
23回 辰馬 愼吾	36回 原 謙三	38回 三木 則夫	52回 依藤 宏
23回 23回 K組 「打出会」	36回 北條 幸造	38回 佐藤 康人	55回 御手洗 毅
27回 光野 昭	36回 吉田 耕一	40回 置塩 忠勝	57回 岩田 圭一
31回 大村 力	37回 石原 義紀	40回 木村 哲三	57回 白尾 誠二
31回 鈴木 登	37回 櫻井 健司	40回 北村惣一郎	58回 田中 史朗
31回 富士川真二郎	37回 高田 俊男	40回 斎藤 芳秀	59回 島本 佳憲
32回 池田 泰二	37回 平澤 義也	40回 鮒 智則	59回 松田 祐一
33回 東 雅弘	37回 福田 進一	40回 松本 敏夫	62回 赤木秀一郎
33回 若田雄太郎	38回 江崎健一郎	41回 本田 啓二	62回 栗栖 孝一
34回 鈴木 博信	38回 大島 直也	41回 三田 俊彦	63回 殿内 了道
34回 中村 功	38回 音川 忠彦	42回 平野 敬則	63回 森本 聡
34回 横内 昭	38回 菅谷 定彦	43回 吉村 進	72回 今村 岳司
35回 大坪 孟	38回 高寺 美慈	44回 林 正朗	74回 徳岡 俊治
35回 神保 全孝	38回 鶴田 和成	45回 小林 智夫	74回 福島 茂之
35回 田中 基博	38回 時川 和夫	45回 門口 正人	81回 小林 崇徳
35回 早川 博	38回 西村 亮一	46回 伊吹 芳訓	87回 宇治田直也
36回 石原 正紀	38回 羽田 英彦	47回 小西 久俊	機械 2 浅井 恭之
36回 加藤 孝一	38回 久松 培夫	47回 進藤 宏	造船 1 辰馬 愼吾
36回 下西 康嗣	38回 細川 幹生	50回 岩朝 央	
	38回 細田純一郎	50回 小野 耕司	

告 知 板

☆同窓生の近著ご紹介☆

同窓会員の方から、最近出版された書籍をお知らせいただきましたので、紹介いたします。ご自身やお知り合いの方の著作物などをご紹介くだされば、検討の上、甲陽アーカイブスへの掲載も考えておりますので、よろしく願いいたします。

高垣綏子(故・高垣雄二郎(15回)令夫人)

『句集 花木権』(NHK文化センター)

江崎健一郎(38回)『麦わら帽子は冬に買え』

『老いるマネーは宝の山か』

『ユニークに乾杯』(かんぽう)

☆新卒者の終身会費制度☆

今年高校を卒業した89回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、追って振込用紙同封の文書にてご案内いたします。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方(卒業時に7年分の年会費を前納)でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.10の表をご覧ください。

☆—お願い— 住所変更の届け ☆

- * 会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- * その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- * 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

☆ご注意！住所・電話番号の問い合わせ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

卒業生と母校、在校生を結ぶ絆 奨学金ファンドにご協力を！

甲陽学院同窓会奨学金は、同窓会の皆様のご支援をえて、2006年度から奨学生への給付が始まり、この2007年度にも中高あわせて6名の奨学生に各年額20万円を給付いたしました。

近年における在校生をとりまく環境は決して良好とばかりは言えないようです。高校では、同窓会奨学金以外の奨学金を受けている生徒が14名、兵庫県の授業料軽減補助を受けている生徒が28名いました(2006年度)。また、今年度の同窓会奨学金の奨学生募集では、中1と高1あわせて2名の定員に対して9名が応募するという状況でした。このように、このたびの同窓会奨学金の企画は、母校と後輩在校生にとって有意義なものとなっております。

この奨学金制度を永続させるためのファンドとしての目標金額は1億円ですが、2007年12月末現在のファンド残高は約3000万円です。より一層の基金の充実を図らなければなりませんし、そのことによって在校生への給付の拡充なども検討したいと考えています。

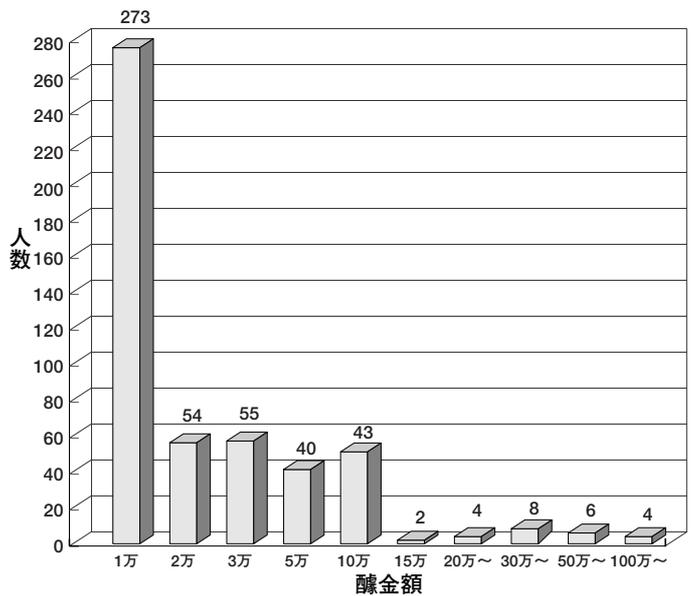
昨2007年は母校創立90周年の記念事業として、このファンドの充実を呼びかけましたが、91年目を迎えた今年も引き続きファンドの充実のためのご協力を強く呼びかけたいところです。

リピーター大歓迎です。一度ならず何度も醸金して下さっている方もいらっしゃいます。(ちなみに、4回醸金された方は2名、3回が36名、2回が2名です。)

すでに醸金いただいた方にも、あらためてご協力をお願い申し上げます。

ご参考までに、1回の醸金額別の分布を掲載します。また、回生別の醸金者数を表にまとめました。()内の数は、卒業生数から住所不明者と物故者を引いた各回生の人数に対する割合です。

醸金方法は下の通りです。一口1万円から、口数に上限はございません。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。



- 〔醸金方法〕**
- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
 - (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

回生	醸金者数	醸金者率	回生	醸金者数	醸金者率	回生	醸金者数	醸金者率	回生	醸金者数	醸金者率
4	1	(50.0%)	32	2	(2.4%)	54	3	(1.6%)	76	3	(2.0%)
11	1	(5.6%)	33	11	(10.3%)	55	5	(2.5%)	77	1	(0.6%)
12	0	(0.0%)	34	29	(46.0%)	56	4	(2.3%)	78	1	(0.6%)
13	1	(4.8%)	35	29	(30.5%)	57	7	(3.4%)	79	1	(0.6%)
14	0	(0.0%)	36	16	(19.8%)	58	12	(6.4%)	80	1	(0.5%)
15	1	(4.2%)	37	44	(39.3%)	59	5	(2.5%)	81	1	(0.5%)
16	1	(3.5%)	38	17	(17.9%)	60	7	(3.9%)	82	0	(0.0%)
17	2	(5.1%)	39	11	(8.9%)	61	5	(2.8%)	83	3	(1.5%)
18	4	(9.3%)	40	20	(15.8%)	62	7	(3.7%)	84	0	(0.0%)
19	1	(1.9%)	41	8	(6.2%)	63	4	(2.5%)	85	1	(0.5%)
20	3	(3.3%)	42	8	(6.2%)	64	4	(2.4%)	86	1	(0.5%)
21	3	(3.8%)	43	7	(4.9%)	65	2	(1.2%)	87	2	(1.0%)
22	6	(6.9%)	44	3	(2.0%)	66	0	(0.0%)	88	1	(0.5%)
23	6	(5.7%)	45	9	(6.2%)	67	4	(2.4%)	高商1	0	(0.0%)
24	2	(2.1%)	46	5	(2.9%)	68	0	(0.0%)	高商2	1	(1.8%)
25	4	(3.3%)	47	11	(6.1%)	69	3	(1.8%)	高商3	0	(0.0%)
26	0	(0.0%)	48	2	(1.1%)	70	2	(1.1%)	高商4	0	(0.0%)
27	10	(11.8%)	49	8	(4.3%)	71	1	(0.6%)	機械1	0	(0.0%)
28	1	(1.8%)	50	7	(3.9%)	72	3	(1.6%)	機械2	1	(5.0%)
29	2	(6.9%)	51	7	(3.6%)	73	0	(0.0%)	造船1	3	(18.8%)
30	1	(3.9%)	52	4	(2.2%)	74	3	(1.8%)	造船2	0	(0.0%)
31	17	(23.9%)	53	2	(1.1%)	75	2	(1.2%)	工業経営	1	(6.3%)